

坪内 優太 氏

大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部

〈理学療法士に研究は必要か？〉

「寝たきりでいると筋力が衰える」。これは多くの人が疑うことのない周知の事実であり、理学療法士はこの現象を「廃用症候群」と呼ぶ。この他にも「加齢によりサルコペニアや骨粗鬆症の有病率が高くなる」、「変形性股関節症は女性に多い」、「軽度上肢片麻痺を呈する脳卒中患者にCI療法や川平法を用いたリハビリテーションを行うことは有用である」など、我々理学療法士の周囲には「常識」とされる情報が数多く存在し、患者と共有している。一方で、リハビリテーション分野においては不確実なことも多く、「常識」とされていない情報の下、理学療法を実施することも少なくない。

この「常識」（＝エビデンス）はどのように作られるのか？また、理学療法関連の「常識」はなぜ少ないのか？そもそも必要なのか？これらを再考することで、理学療法士と研究の関係性が観えてくるのではないだろうか。本研修会がその一助になればと思います。

本田 祐一 氏

大分循環器病院 リハビリテーション科

〈臨床研究が「診療の質」・「チーム力・組織力」の向上に繋がる〉

「自分の行なっている理学療法は本当に効果があるのだろうか？」

「慣例的に行なっているこの〇〇は本当に意味があるのだろうか？」

理学療法が治療者側の自己満足にならないために、実施された理学療法が患者・利用者にとって役立っていたかという疑問を持つことは重要なことだと思います。そして、その疑問を臨床研究によって検証することはさらに重要なことです。今回の講習では、普段の診療からどう疑問点を見つけるのか、またその疑問点をどう臨床研究につなげるのかというところを私の経験を踏まえ説明します。また、研究結果がでた後に、発表・論文にして終わりではなく、診療の質の向上や各チーム・部署などの組織力の向上に繋げていくことも重要だと考えています。導きだされた結果から現状をどう変えていくのかという視点も交え話をさせていただきます。少しでも臨床研究を身近に感じることができ、臨床研究に一步踏み出すきっかけになるような講習内容にしたいと考えておりますので、気軽に参加して頂ければと思います。